

# 会議・打合せ等記録

部 長	課 長 等	係 長 等	担 当	回 覧

報告日：令和4年11月30日

名 称	令和4年度第2回鹿沼市環境審議会		
日 時	令和4年11月18日（金） 午後2時00分～午後3時10分		
場 所	北押原コミュニティセンター		
出 席 者	別紙のとおり		
内容及び 結果等	1 開会（司会：関口課長） 2 会長あいさつ（鈴木会長） 3 議題（進行：鈴木会長） (1) 報告事項 ア 『かぬまの環境』（第4次鹿沼市環境基本計画 令和3年度実績報告書）について イ 前回質問事項への回答について（エコスクール事業） ウ 廃棄物処理手数料の見直しについて (2) その他 4 閉会		
配布資料	別紙のとおり		
次回予定	R5.1～2月 第3回環境審議会		
記 録 者	山本		
鹿沼市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条に基づく審議会等の公開状況 (該当する審議会等以外の会議・打合せ等については記入不要)			
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開	・ 非公開	(公開の場合) 傍聴人数 0人

## 令和4年度第2回鹿沼市環境審議会会議記録

委員氏名	鈴木	廣田	大出	松島	森	齊藤	梶原	岡本	安達	寺内	田島	橋本	小太刀	神山	渡邊
出欠	○	○	欠	○	○	○	○	欠	○	○	○	欠	○	○	○

### 【事務局】

- 事務局……高村部長、関口課長、山本主査、羽石主任主事
- 環境課……川田係長
- 廃棄物対策課……金子課長、浅野補佐、渡邊補佐、

### 1 開 会

### 2 会長挨拶

#### (1) 会長挨拶

現在、新型コロナやウクライナ戦争の影響により、世界的なインフレやエネルギー危機が生じており、わたしたちの暮らしにおいても、様々な値上げ、電気ガス等エネルギー価格の高騰など、家計にも大きな影響を及ぼしています。さらに、冬場に向けて国は7年ぶりの節電要請を行うなど、電力需給も非常に厳しい状況となっています。

このような中、「ZEH」（ゼッチ）と呼ばれる省エネ住宅が注目されています。これは、断熱や省エネにより消費電力を減らすとともに、太陽光発電などで電力を生み出すことで、年間のエネルギー消費量が差し引きで「実質ゼロ」になる住宅です。本日の議題にもある「エコスクール」とも似たような考え方になります。

市でも今年度からこのZEH（ゼッチ）住宅への支援を始めており、このような省エネや節電の意識を市全体で高め、エネルギーの削減や温室効果ガスの排出削減を図っていくことが今後ますます重要になってくると思われます。

本日の会議においては、環境を取り巻く様々な課題の解決に向け、委員の皆様には積極的な発言と、よりよい会議の運営にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

### 3 議 事

#### (1) 報告事項

ア 『かぬまの環境』（第4次鹿沼市環境基本計画 令和3年度実績報告書）について

事務局 : 《山本主査が資料1により説明。》

- ・実績に関する数値については、前回会議で示した速報値と変更なし

鈴木会長：何か質問等あるか？報告のとおり了解するということで良いか？

一 同：《異議なし。》

イ 前回質問事項への回答について（エコスクール事業）

事務局：《山本主査が資料2により説明。》

- ・現行の第5次計画の中において、エコスクール事業の目的や要素を満たす各施策が内在されていると考えられる。
- ・エコスクール事業の実施主体である教育委員会においても、エコスクール事業による取組としての取り上げ方はしていない。
- ・エコスクール事業を満たす各施策を含め、現行計画の進行管理の中で各施策の推進を図っていくため、新たな取組としての追加記載は行わないこととする。

鈴木会長：何か質問等あるか？

梶原委員：新たに追加はしないということだが、学校施設面のLED化に限らず、例えば校舎壁面の緑化など、色々な考え方を広げていってもいいのではないか。

事務局：現在進行中の取組事例として、エコ事業によるLED化を記載したもの。第5次計画では、LED以外にも、断熱性や省エネ性の向上を図る設計や運用に努めていくことを掲げており、学校施設を含めた市の公共施設全体での推進を図っていく。

梶原委員：新規の建物だけでなく、既存の建物の省エネ化については現計画にどのように述べられているのか。

事務局：既存施設の改修の際にも、積極的に省エネ化やZEB化を図っていくと記載している。新設だけでなく、既存施設の省エネ化も非常に重要であり、既存施設の省エネ化にあたり、費用面など、まず第一に取り組みやすいものがLED化である。

田島委員：運営面の「無駄なく使う」に関して、学校現場では、コロナ感染防止のために換気を行っており、換気をしながら冷暖房を使用する場面もあることから、電気使用量が従来よりも増える場合もある。コロナ禍における光熱費についても配慮してもらえれば。

事務局：学校現場での非常に厳しい状況は把握している。財務部局にも伝えていく。

森委員：「環境学習の推進」の施策について、エコスクールの認定を受けることで、国から環境講座（ソフト面）に関する予算の加算もあるのか？

事務局：エコスクールの認定を受けて整備した施設（ハード）を活用した環境教育を対象に国から補助が出るため、現在実施している各地域ごとの環境学習講座は対象外である。

神山委員：森林環境譲与税について、環境学習に関連できるものはないか？

事務局：主幹部局である林政課とも連携協議しながら、活用できる部分があれば積極的に検討していきたい。

渡邊委員：環境教育については、実際には各学校において一生懸命様々な取り組みをしている。行政は縦割りなので、補助金についても、市を通さず県から各学校へ直接交付される場合も多いため、把握が難しい面もあると思う。今度、小学校でビオトープの取り組みを行う予定がある。

この資料に記載のほかにも、学校教育の現場では、それぞれの学校で環境教育の様々な取り組みが行われている。

鈴木会長：環境のために、様々な団体が様々な取組を行っている中で、より効果的効率的に行っていくためには、縦割りだけでなく横の連携も大切なことである。

田島委員：本校でも、組子細工を使った学習講座を行っている。子供たちから参加費を集めて実施しており予算面の配慮もいただけたらありがたい。学校現場における環境学習事例として紹介させていただいた。ホームページにも掲載している。

鈴木会長：その他、質問等あるか？了解するということで良いか？

一 同：《異議なし。》

#### ウ 廃棄物手数料の見直しについて

事務局：《浅野補佐が資料3により説明》

- ・持続的なごみ処理のため、廃棄物処理手数料全般の見直しが必要と考える。
- ・市民生活に影響が大きいものについては、見直しをするかどうかの判断も含めて検討していく。
- ・今後検討に入り、検討結果が出次第、審議会に報告する。

鈴木会長：何か質問等あるか？

梶原委員：家庭系持込を有料化したばかりであるため、時期はいつ頃を想定しているか。

事務局：見直しの時期についても、これから検討を始めるところである。

梶原委員：家庭系を有料化する際に、事業系を220円のまま残したのはなぜか。

事務局：コロナ禍であり事業者の厳しい経営状態を鑑み、値上げは難しいという判断を行った。

家庭系有料化については、財源の確保というよりは「ごみの減量化」を進めることを一番の大きな目的として行ったものである。ごみを減らすことで処理費用を抑えることを想定していた。

しかし、昨今の急激な燃料費や電気料の高騰を受け、原価計算も交えながら、現在の料金体系が本当に適正なのか、持込よりも収集が安いなどの逆転現象も含めて、手数料全般の見直しの作業を始めていきたいという主旨である。ごみは毎日出すものであり、市民生活に影響が大きいものについては、見直しをするかどうかも含めて検討していく。

検討した結果については、金額やその根拠、据え置きするか否かなど、また審議会において詳しくお示しさせていただく予定。

梶原委員：見直し検討が必要ということは理解した。事業系についても、当然減量化が必要だと思うが、事業系の分別の状況はどうか。きちんと分別されて出されているのか？

- 事務局 : 持ち込まれたごみを全てチェックはできないが、もともと有料なこともあり、分別が不十分なケースは見られる。事業系についても、家庭ごみと同様の分別を10月以前から周知しており、分別できていない場合は受入せず返している。事業系も家庭系と同様に減量化を進めていくことは重要であり、きちんと分別していただきしっかり再資源化できるよう、周知啓発を引き続き取組んでいく。
- 梶原委員 : 理解した。事業系燃やすごみは一刻も早く250円にしてもらいたいし、合わせて分別の啓蒙なども引き続き進めてほしい。
- 森委員 : 家庭系との逆転現象については、ぜひ是正されるべきだと考える。前回も質問したが、持ち込まれた枝や葉の処理については、現実的には全て燃やしているのか？
- 事務局 : 基本、持ち込まれた枝・葉については燃やして処理している。燃えやすくするため、直径10cm以下に割っていただいた上で持込をお願いしている。
- 森委員 : コストをかけて燃やすのではなく、腐葉土として自然に還るとか、再利用するような方法があれば、処理費用を抑えることにつながるのでは？
- 事務局 : 民間の取組として、下野市で落ち葉や枯れ木を肥料化する事例はある。ただ、事業化するとなると費用面、設備投資に見合うかどうかや、安定供給できるかななども含めて検討が必要で、さらには施設として地元の合意形成なども必要になるため、現時点ですぐには難しい。将来、炉の建て替えの時などに考えていきたい。
- 松島委員 : 枝や葉の堆肥化については、以前、堆肥化センターで受入していたことがあったと思う。燃やす以外の方法があれば、なお良いと思う。
- 事務局 : 堆肥化センターで、一般の方というよりは造園業者等になるが、家畜の糞尿と枝葉を混ぜて堆肥を作っており、そういった面での利活用はしている。ただ、肥料化するにも配分比などもあるので、全量を全て受入しているわけではないのが現状である。

#### 【後日、事務局確認事項】

堆肥化センターへの有機性資源の持込について

- 1 持込ができる方  
事前に利用者登録を行った市内業者（畜産、造園、木工業、林業）のみ  
※個人の持込は受け付けておりません
- 2 持込が可能なもの  
家畜排せつ物、木くず（剪定枝、木の幹、木片、おがくず）  
※草刈り等で出た草、落葉は搬入不可
- 3 その他
  - ・引き取り費用は有料（搬入分担金として、木くずで170円/10kg）
  - ・畜産農家の減少に伴い糞尿量も減少しているため枝葉が余っている状況

鈴木会長 : その他、質問等あるか？了解するということで良いか？

一 同 : 《異議なし。》

(2) その他

鈴木会長：その他、何か質問等あるか？

梶原委員：10月からの分別方法の変更に関し、ステーションでの取り残しや地元の混乱、苦情なども聞いている。現在の収集についてはどのような状況か？

事務局：ステーション取り残しのケースや、何ごみで出せばいいか？の問い合わせのお電話は多数いただいている。今後も収集業者に指導していくとともに、まだ変更から1ヶ月であり、出す側としても収集する側としても、なかなか短期間で完全には難しいと思われるため、今後も粘り強く進めていくことが重要と考えている。

梶原委員：きれいなまちづくり推進員として、ステーションの管理をしているが、危険ごみの5分別の小分けについて、菓子缶を用意したりして各自工夫しているところである。市の側で容器を配布してもらえともっと混乱なくできたのではないかといい市民からの声をいただいているので、報告させていただいた。

鈴木会長：用意した缶を盗まれてしまったという話も聞く。ごみを出す意識について、地域として今後も粘り強く見ていく必要があると思う。

廣田委員：葉や小枝の利活用に関して、粉碎する機械があるが費用が高い。生ごみコンポスト補助のように、一部助成など、市として支援を考えてもらえたら。

事務局：市からの支援について、個人の持ち物への補助は難しい面もある。機械を市が購入して団体に貸し出すとか、方法としては将来に向けた検討課題とさせてほしい。個人に対する補助として生ごみコンポスト補助を行っているので、そういった制度も活用して、堆肥化などに取り組んでいただきたい。

鈴木会長：その他何かあるか？

事務局：次回の会議は、1月～2月頃を開催予定。詳細は、改めてご案内する。

鈴木会長：その他何かあるか？

一 同：なし。

4 閉 会